

まんのう町教育委員会だより

爽そうふう風

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 56

令和8年【2026】
8月1日 発行



特集

VUCA時代の学校・こども園では

Contents

P.6～7 園・学校ウォッチング
四条小学校・満濃南こども園

P.8 運動会
P.9 シリーズ「声」

P.10 ホットニュース
P.11 関係機関から

VUCA時代においても子どもたちに必要な力

- 文章の意味を正確に理解する読解力
- 豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力
- 教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力
- 困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力
- 対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力
- 公共の精神の育成、体力の向上、健康の確保を図ること

学校・園に求められているものは？



小・中学校

学習指導要領※の着実な実施



こども園

主体的・対話的で深い学び

「主体的な学び」

問題を自分のこととして受け止め、解決までの道のりがいかに困難であっても、あきらめずに取り組み続ける姿。

「対話的な学び」

周囲の人たちとうまくコミュニケーションを図りながら、協働してよりよい解決策を見つけていこうとする姿。

「深い学び」

直面する問題を多面的にとらえ、試行錯誤を繰り返しながらその本質に迫り、納得できる解決を得ようとする姿。

小・中学校では、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視して、学校の授業を改善しています。子どもたちが学んだ一つ一つの知識がつながり、「わかった」「おもしろい」と感じる授業、周りの人たちと共に考え、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業などを工夫して、子どもたちの資質・能力を育てています。また、今後の社会の進展を考え、外国語の学習やICT機器の活用・技能の習得を積極的に進めています。



数えてみるね

※学習指導要領は、全国どの学校でも一定の教育水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程の基準です。



夢中になって遊びに没頭し主体的に遊ぶ経験が、豊かな「学びの芽生え」を育みます。

知識及び技能の基礎

豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする

思考力、判断力、表現力などの基礎

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする

学びに向かう力、人間性など

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

こども園では、遊びを通して上記の3つの力を一体的に育てています。幼児期にしっかりと土台を築くことで学校での成長がスムーズになり、生きる力の育成につながります。

VUCA時代の学校・こども園では



テントウムシ見つけた!

Volatility (変動性)

変化のスピードが速く、質・量の変動も大きい状況

VUCA

Uncertainty (不確実性)

将来何が起るか予測できない状況

Complexity (複雑性)

様々な要素が複雑に絡み合っている状況

Ambiguity (曖昧性)

物事の因果関係が曖昧になっている状況



VUCA（ブーカ）とは、上の4つの言葉の頭文字を組み合わせたもので、現代を取り巻く社会経済環境が、不安定・不確実かつ複雑、曖昧な、きわめて予測困難な時代であることを表す言葉です。元々は冷戦終結後の先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態である国際情勢を意味する軍事用語として使われました。その後、ビジネスや経済の世界で使われるようになり、教育の場でもこれからの子どもたちを取り巻く状況を「VUCA時代」と示すことが増えてきました。

近年、スマホの登場やテクノロジーの進化により、様々なしくみやルールが変化しているところで、社会はコロナウイルスにより一変しました。未知のウイルスとの先の見えない戦い。学校では3か月に及ぶ臨時休業。再開後も、3密の回避のために、友だちとの触れ合いも制限され、一人一台端末が配布されるなど、教育の場の様相も大きく変わりました。

これからの子どもたちが生きる時代や世界は、「よく変わり、予測が難しく、複雑で、つかみどころがないもの」だということです。しかし、逆に見ればそれだけ多様な可能性と選択肢があるものと捉えることもできます。

参考・引用：「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）
令和3年1月26日 中央教育審議会
認定こども園教育保育要領 平成30年3月 文部科学省 子ども家庭庁
小・中学校学習指導要領 リーフレット「生きる力 学びの、その先へ」平成29年3月 文部科学省

小・中学校

友だちと学び合う



どう考えたの?



バランスをとるには

そんないま、小中学校・こども園ではどのようなことが行われているのか



こども園

遊びを通した「学びの芽生え」

文字や絵本に親しみながら



ぼくが書くよ



大好き絵本のもり



どっちが強い?

友だちと関わりながら



みんなと一緒に楽しいな



ALT (外国語指導助手) との英語授業



読書・読み聞かせ



読書の時間

外国語学習

主体的・対話的で深い学び



外国人先生とのオンライン英会話



タブレットを使って



ICT機器を活用



自分たちができることは...

課題解決に向けて探究



どんな「妖怪マップ」にしようか



親子でタブレットを操作して

生き物と触れ合いながら



何を食べるんだろう



お水いっぱい飲んでね



見て〜きれい!

感性を働かせながら



ヒラヒラ! パチパチ!

「し」なやかな感性・人間性

- 「めざす子ども像(資質・能力)」
- 「し」は「しなやかな感性・人間性」
- 「じ」は「自立のための自律」
- 「よ」は「よく学び、よく遊び、よく働く」
- 「う」は「美しく生きる」



学校教育目標
他を思い、自己を鍛え
なりたい自分を見つける
四条小学校

美しく生きる

「こ」は、「美しく生きる」です。心のものさしは、損得勘定よりも善悪のものさしで正しく生きてほしいです。目先の損得ばかり考えていると生き方が小さくなってしまいます。大人代表として子どもたちの前に立ち「いいことはいい、いけないことはいけない」と毅然と強く伝えていきます。

しかし、善悪だけで生きていくのは苦しいです。「私はきちんと生きているのに！」と怒ってばかりで不機嫌な人生になってしまいかもれません。善悪(正しさ)のものさしよりも美醜の価値観でかつよく生きていってほしい。そのことが子どもたちの幸せにつながると思っています。

1学期前半は、登校時の黄色い帽子の着帽率にこだわりました。命を守る黄色い帽子。「何のため」「誰のため」と、しっかりと目的意識を確認してあなたの命が大事なのだと伝えてきました。保護者や地域の方の支援をいただき、着帽率98%まで増え習慣化してきました。「伝わった」実感を得ています。揃えることの強さ、美しさ、充実感は、そのまま体育祭の感動へとつながっていました。



4/30(木) 出会いは一期一会。新入生歓迎遠足で縦割り交流ゲーム。



四条小学校では、「トライ&エラー」を合言葉に、失敗経験も成功経験と同じくらい大事にしています。



「し」は、「しなやかな感性・人間性」です。これが育つと何事にも感謝し、幸せに生きることができ。そのためには、目の前のごを丹念に観る「アリの目」も大事ですが、それ以上に全体を俯瞰して大義を忘れない「鳥の目」(公の心、志)が大事です。突然の雨、傘には感謝するのに、建物の屋根や日ごろの太陽に感謝することは、あまりありません。1年生を歓迎する遠足や6年生最後の体育祭という大きな目標に向かってせっかくな努力してきたのに、目の前の小さな感情(私心)に心奪われ、トラブルになってしまつともったいないです。いつも「何のため」「誰のため」という大きな目標を見失わないようにしようと思えています。大きなもの、当たり前への感謝をもてるようになったら、きっと幸せに生きていけると思っています。

自立のための自律

「じ」は、「自立のための自律」です。夢に向かって自分のルール(自律)で生きる逞しさを育みたい。休み時間を返上して自主的に集まり、学校の未来を話し合う6年生がいます(四条つ子未来会議プロジェクト)。体育祭のダンスリーダーや誕生日給食など、様々な夢を語り合う「じ」の実現しています。

満濃南こども園は新園舎になって今年で5年目を迎えます。現在、0歳児から5歳児まで160名の園児が在籍しています。0歳児・1歳児・2歳児クラスは緩やかな担当制を取り入れるなど、愛着形成を大切にしながら子ども主体の教育・保育をめざして取り組んでいます。

園庭での安心の居場所



4月の初め、子どもたちは、初めての園舎に不安や緊張を感じ、自然と表情が硬くなったり、大きな声で泣きながら感情を一杯に表現したりします。特に新しく入園してきた子どもたちにとっては、保護者と初めて離れて生活するのはすからなものです。この時期は特に、私たち保育者も心を総動員して園児に寄り添っています。

そんな中、毎朝園庭に広がる大きなこのほりは、子どもたちの安心できる存在になっています。気持ちよさそうに泳ぐ姿に「おい」と大きな声で呼びかけたり、もう少しで届きそうな長いしっぽに手を伸ばしたり。お散歩用のベビーカーに乗った小さな子どもたちも保育者と一緒にこのほりを見つめるうちに、いつの間にか涙がピタッと止まることもあります。

また、園庭のメダカやテントウムシ、チョウたちも安心できる環境の一つです。水槽や草花の周りに保育者としゃがみ込み「小さいね」「かわいいね」と同じ目線で見ていくうちにお互いの心をじんわりと和ませてくれます。こうして焦らずゆつくり過ごす中で子どもたちは少しずつ気持ちを安定させ、保育者から離れて園庭中を探索するようになります。



「春」新しい出会いの中で 広がる世界 満濃南こども園



笑顔がつながる「スマイルタイム」
 4月中旬、運動会の練習が始まりました。4歳児の数がテラスの前で踊っているとおもしろそう!と0歳児・1歳児・2歳児クラスの子どもたちが集まってきて、ポンポンを手に一緒に踊り始めました。楽しい音楽とお兄さんやお姉さんの踊る姿は、なんとも魅力的なようです。そこで、今年度最初のスマイルタイム(異年齢活動)では、5歳児の運動会のダンスを芝生の上で、みんなで楽しむことにしました。自信に満ちた顔で生き生きと踊る5歳児。音楽が流れる中、段々と集まってきた子どもたちや保育者の顔に、次々と笑顔があふれていきます。自分らしく思い思いの姿でその場を楽しんだり、のびのびと表現したりする姿が見られ、短いながらも幸せな時間を過ごしました。これから年間スマイルタイムを通して、どんな風にみんながつながっていくのかとても楽しみです。

園庭の恵みの収穫

昨年度から育ててきた園庭のスナックエンドウやソラマメが実をつけ、いろいろなクラスの子どもたちと楽しく収穫しました。2歳児クラスの子どもたちは、さっそくままごに使い、大喜びでした。「どこにあったん?」と見つけた場所をみんなで教え合う微笑ましい姿も見られました。



ドキドキがいつぱいの春でしたが、4月、5月、6月と、一日一日子どもたちと心が通じ合う瞬間を重ね、今では子どもたちが安心感をもって、自分らしく生活する姿が見られるようになってきました。これからも、いろいろな人、もの、こととの出会いの中で、「一人ひとりの「やりたい」」「おもしろい」心の動く瞬間を大切に受け止め、子どもも保育者も主体的に生活ができるような園を目指していきたいと思っています。

第40回 新任園長・校長として

今年4月、町内こども園、小学校に、新しく園長・校長に昇任された先生方がいます。お二人の新任園長・校長の「声」を聞きました。

ともに育ち ともに歩む

高篠こども園での2年目を迎え、今年度は、園長として、保護者や地域の方、職員、何より子どもたちの笑顔に支えられながら一歩ずつ歩んでいます。朝の始まり、放送当番で職員室にきた年長児と「おはようございます！昨日の続きするんで」「園長先生も見て来てね」と会話を楽しんでいます。子どもたちが、遊びを楽しむ生活をする中で「見て」「聞いて」に応え、安心と信頼を育む存在でありたいと思います。

5月の小学校との合同運動会では、子どもたちが広い運動場でいきいきとした表情で踊ったダンスや、家族と笑顔で参加した親子競技、堂々とした鼓隊演奏などを見て頼もしく感じました。保護者や地域の方々に「子どもたちの姿に感動した」「元気をもらった」と声を掛けていただき、大きな励みとなりました。改めて多くの方々に支えられていることを実感しています。

高篠こども園の玄関には、昔の園舎や周りの風景の写真が飾られています。写真を見るたびに、地域の中で長い年月子どもたちが育っていること、多くの方々に支えられながら園の歴史が紡がれてきたこと、歴史の積み重ねの上に今のこども園があること、そして、その大切なバトンを私が受け継いでいるのだと感じています。

日々、期待と喜びを感じる一方で、園長として判断することの難しさや責任の重さに葛藤や戸惑いもあります。その一つひとつから学び、子どもたちにとって何が最善なのかを問い続けていきたいと考えています。新任園長として未熟ですが、謙虚な姿勢と感謝の心を大切に、子どもたちの笑顔を原動力に皆で育ち合える園を築けるよう努力していきたいです。



高篠こども園 園長 黒川 理恵

出会いに感謝

しばらく教育行政に携わり、学校現場を離れていた私にとって、始業式で子どもたちと出会えたことは、何よりもうれしい瞬間でした。

始業式の翌朝、正門であいさつ運動をしていると、ある男の子が「こんなものを見つけたよ」と、うれしそうに見せてくれたのが、大きな四つ葉のクローバーでした。「今日一日ハッピーになれる」と、目を輝かせるその姿を見ると、私にはその四つ葉のクローバーが、「高篠小学校の子どもたちが幸せを感じる学校にしてくださいね」と語りかけているように思われ、うれしさとともに、職責の重さを感じた出来事でした。

また別の日には、トカゲやダンゴムシを見せてくれる子、校庭に落ちている枝を並べて遊ぶ子、「先生、見て！」と空に浮かぶ雲の形が面白いことを教えてくれる子など、子どもたちの豊かな感性と好奇心に日々驚かされています。こうした感性や好奇心を大切にしながら、子どもたちが自ら考え、行動していけるよう支えていきたいと思っています。

校長という立場になると、学級担任のように一人ひとりの子どもと深く関わる機会は限られます。そのことに少し寂しさを感じることもあります。全校の子どもたちとつながりを持ち、その成長を見守ることができるとは大きな喜びです。子どもたちとともに、楽しみながら「幸せづくり」を進めていきたいと思っています。

また、校長になって改めて感じているのは、学校は地域、保護者、そして教職員が力を合わせてつくり上げていくものだということです。教職員の子どもたちへの深い愛情と行動力、地域や保護者の方々からの温かい支援と協力を感謝しながら、これからも、「幸せづくり」を進めていきたいと思っています。



高篠小学校 校長 宮脇 美津子

中学校



こども園

うんどうかい

5月16日(土) 高篠小学校・こども園
琴南小学校・こども園
長炭小学校・こども園
仲南小学校・こども園
23日(土) 四条小学校・こども園
満濃南小学校・こども園
30日(土) 満濃中学校

小学校



天候に恵まれ、各校・園とも予定通り実施されました。保護者や地域の方の声援を受け、子どもたちは心を合わせてがんばりました。



天の川を眺めてみよう！

※写真の木星や土星の位置は現在と異なります。

昨秋から天文台の管理人として勤務しております横山昌太郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、夏に見頃を迎えるのが天の川ですね。

夏の夜、東から南の空にかけて3つの明るい星が輝いているのが見えます。空の高いところで輝いているのが織姫星（おりひめぼし、こと座のベガ）、そこから東に少し下ったところで輝いているのがはくちょう座のデネブ、そして織姫星から南東の空に目を向けると見えるのが彦星（ひこぼし、わし座のアルタイル）です。これら3つの星をつないだ大きな三角形が「夏の三大角」です。

街明かりが少ない場所で、月が出ていない夜なら、この織姫星と彦星の間を通過して南の空にうっすらと白くたなびいている雲のようなのが見えます。天の川です。

川と言ってももちろん水が流れているわけではありません。これは数えきれないほどの星々の集まりです。

夜空の中で、どうして天の川のあたりに星が集まって見えるのでしょうか。それは、私たちが銀河系の円盤をその内側から眺めているためです。1,000億個以上の星が集まっていると言われる銀河系は中心がふくらんだ円盤、たとえば薄いどら焼きのような形をしています。私たちの太陽系はこのどら焼きの中心から外れた、円盤の中ほどあたりにあります。地球から銀河系の中心方向を見ると、たくさんの星の集まりが天の川として見えるというわけです。

外から見た天の川銀河（銀河系）の想像図



「天文学辞典」（公社）日本天文学会より引用

天の川というと夏の印象が強いですが、冬の夜空にも天の川は存在しています。ただ冬は夏とは反対の方向、つまり銀河系の中心方向とは反対側を見ているため、夏の天の川よりも淡くなります。街明かりや月明かりの少ない暗い場所で、できれば双眼鏡などを使うと星が集まっている様子がわかるでしょう。

一年を通して星空を眺めていると、私たちの地球は本当にたくさんの星々に囲まれていることがわかります。この銀河系のどこか別の星でも、私たちとは違った形の天の川を眺めている誰かがいるのでは？そんなことを時々思います。

まんのう天文台 横山 昌太郎



校内研究授業参観

今年度も、「主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり」を進めるために、教育委員会が各校の研究授業、研究討議を参観する機会を設けています。各学校の研究主任の先生も、希望する学校を選択して、これに参加しています。

子どもたちの学習の様子や授業討議をもとに、授業のあり方や研修の深め方について、ともに考え、学んでいます。

四条小 (6.10)



5年 社会科 あたたかい土地の暮らし・沖縄県恩納村
～「サンゴ礁」を守り、くらしにいかす営みを通して～



清濃中 (6.11)



1年 数学科 素因数分解



2年 美術科 ビカソ体験！キュビズムで描こう



3年 国語科 作られた「物語」を超えて

幼小連携接続研修 (5.12)



こども園の5歳児担任と小学校の1年生担任が、入学して間もない子どもたちの様子をもとに協議しました。そして、同じ校区の学校・園ごとにめざす子どもの姿を共有しました。こども園・保育園での学びを生かし、小学校での学習や生活につながるように今年度の取り組みについて計画を立てました。今後計画に沿って実践し、振り返りをして取り組みを見直していきます。

教職員の資質向上を図るため、町教育研究所主催の研修会が始まりました。年間計画に沿って、様々な立場の教職員を対象に実施しています。6月までに行われた研修会の一部を紹介します。

人権・同和教育研修 (6.16)



今年度町内のこども園・小・中学校に赴任した教職員を対象に開催しました。町企画政策課課長、長尾会館館長から、町の人権・同和教育に関する取り組みや長尾会館の活動について話を聞きました。



これからは人権・同和教育について正しく理解し、人権意識を高くもって、子どもたちと接してください。



満濃南こども園

編集後記

10年くらい前から「Z世代」という言葉を耳にするようになりました。Z世代は、1990年代半ばから2010年ごろ生まれの人で、デジタル技術が普及したころに子ども時代を過ごし、デジタルに慣れている世代です。

2010年から2024年に生まれた世代は「α世代」と呼ばれます。現在の小・中学生は、このα世代にあたります。物心つく頃には身近にスマホとSNSがあり、人工知能（AI）とともに育ってきた世代です。この世代の子どもたちが社会で活躍するのは2030年代以降になります。

AIがより進化する未来を生きる子どもたちには、どのような力が必要になるのでしょうか。

ジャーナリストの池上彰さんは、「僕たちはなぜ働くのか」「池上彰の未来予測 After 2040」などの本の中で、重要な力として次の3つの力を挙げています。

知識の運用力（教養）

ただ単に知識を詰め込むのではなく、歴史や政治、経済などの「教養」を身につけ、それを組み合わせ自分で考え、判断し、自分の意見を構築する力が重要です。

自ら学ぶ好奇心と行動力

テクノロジーが進化するこれからの時代は、変化に主体的に対応し、学び続ける好奇心が欠かせません。

多角的な視野と他者を思いやる心

多様性を理解し、様々な情報をうのみにせず批判的に見つめ直す力、そして「なんのために学ぶのか」を通して他者や社会を知る人間力が大切です。

未来に向けて子どもたちにつけたい力は、たくさんあります。しかし、AIが急速に進歩する時代だからこそ、AIにはない人間がもつ力が大切になってくると思います。例えば、他者の心に共感し寄り添う力、直感や感情から生まれる発想力、実体験からくる肌感覚、道徳観や倫理観に基づく判断力と責任感、人を動かす情熱などです。

子どもたちには、学びや生活の中でこれらの力を磨き、育んでいくことが大切だと思います。これらの力を伸ばすことでAIと上手に付き合うことができるのではないのでしょうか。

表紙絵：川瀧 梨音（満濃中学校美術部2年）

次号予告
(10月1日発行)

特集
国・学校ウォッチング

集団宿泊学習で学ぶ
満濃中学校・長炭こども園